

# 神戸町社協居宅介護支援事業所だより

## 要介護者のやる気をうながす接し方

### ●「手」をかけるより「声」をかけよう

介護のときには「何をするから、こうしましょう」と、動作の意味を言葉で伝えましょう。要介護者にとっても、先に目的がわかっているならば、介助されていても自分で動こうとする意欲が生まれてきます。



### ●できることはしてもらおう

たとえば歯みがき。時間がかかるから、上手にできないからと、介護者が一方的に手を貸してしまうのは禁物。できることは自分でしてもらい、できないことをサポートするのが介護の基本です。自分でできれば、要介護者の今後の自信につながります。



### ●ほめて動かす

ほめられれば誰だってうれしい、それは要介護者も同じです。できたことや、前向きになれたことは大いにほめましょう。要介護者の状況が、今日より明日はもっとよくなるように、ほめて人を動かせるよう、介護者が導いていきましょう。



### ●大きな声を出さず、耳元でゆっくりと

耳が聞こえにくいからとが、一度では伝わりにくいからと勝手に決めて、大きな声で話しかけてはいませんか？大きな声は要介護者を驚かせ、萎縮させることになりかねません。手間がかかっても、耳元でやさしい口調で話しかけるようにしましょう。



### ●会話やスキンスツップでふれ合いを

要介護者にとって、心身を支えてくれる介護者は心から安心できる存在。体を移動させるときには、手をさしのべる、肩を抱えるなど、スキンスツップを大切にしましょう。また、たとえ同じことを何度くり返しても、やさしい気持ちで聞いてあげましょう。介護には信頼が何より大切なのです。

